

第9回 高校生との意見交換会 ～光の窓から日本の空を～



令和8年1月24日（土）13:30～15:30
場所 光市議会本会議場



次 第

- 開会セレモニー
- 議会からの説明
- 高校生の主張
- 休憩
- 高校生と市議会議員の意見交換会
- 閉会セレモニー

1 高校生の主張

【聖光高等学校 西山悠太さん】



私は現在、介護福祉士を目指して福祉を学ぶ高校2年生です。介護保険制度は「介護が必要になってから使う制度」だけでなく、「介護が必要にならないように支える制度」でもないと授業で学びました。しかし、光市の介護予防ケアマネジメント、つまり日常生活支援総合事業について調べる中で、教科書で学ぶ内容と、実際の地域での運用との間に疑問を感じました。

まず一つ目の課題は、日常生活支援総合事業を「誰が、どのように利用しているのか」という実態が、非常に見えにくい点です。市のホームページを調べた際、サービスの説明はあっても、具体的な活動報告や利用状況が分かる資料を見つけることができませんでした。制度は存在していても、実際に機能しているのか、どのような活動が行われているのかが、市民からは見えにくい状態だと感じます。

次に二つ目の課題は、要支援や非該当と認定された人への制度紹介のあり方です。教科書では、要介護認定を受けることができなかつた人でも、ふれあいいきいきサロンなどの日常生活支援総合事業を利用できる体制があるとされています。しかし実際には、要支援と認定された人が、他の介護保険サービスの予防給付については説明を受けたものの、日常生活支援総合事業については紹介されなかつた、という話を聞きました。これでは、本来の目的で

ある介護予防支援につながらない人が出てしまいます。

また、三つ目の課題として、介護サービスや制度の分かりにくさがあります。ホームページや地域包括支援センターで紹介されている介護サービスや仕組みは種類が多く、とても複雑です。福祉を学んでいない人や高齢者、その家族にとっては、内容を理解すること自体が難しいのではないかと感じました。そして、この複雑な制度をどのように説明し、活用するかは、担当者、つまり市の職員やケアマネジャーの力量によって利用者や家族の生活、いわば「その後の生活」にまで影響してしまうのではないかという不安もあります。

さらに四つ目の課題として、要介護認定の通知書の表現があります。知り合いから聞いた話ですが、要支援の人が要介護への再認定を申請したところ、通知書には「申請を介護保険法の規定に基づき却下します」という文章が記載されていたそうです。介護への不安を抱えている中で、「却下します」という言葉を受け取った本人や家族は、つらい気持ちに追い打ちをかけられたように感じたと聞きました。また、その後に利用できるサービスや、今後の生活に向けたアドバイスは記載されていませんでした。「ご不明な点があれば相談してください」と書かれていても、利用者や家族にとっては、「何が不明なのかが分からない」というのが現実問題だと思います。以上の課題を踏まえ、二つの提言をさせていただきます。

一つ目の提言です。2000年に始まった介護保険制度は、25年の間に新しいサービスや仕組みを付け足す形で拡大してきました。その結果、制度全体の見通しが悪くなっているのではないかと、私は考えています。だからこそ今一度、制度を整理し、例えば「この人には、この支援が必要である」といように、分かりやすく示すことが大切ではないでしょうか。

二つ目の提言です。もし要介護認定申請の結果が「却下」であったとしても、その言葉を受け取る人の気持ちを考えた文章表現について、検討していただけないでしょうか。また、日常生活支援総合事業の紹介や、相談先の案内を併せて示すことはできるはずです。結果だけを伝えるのではなく、「これからどうすればよいのか」まで示すことが、市民に寄り添った介護保険制度につながるのではないかと考えます。

福祉を学ぶ高校生として、光市の介護保険が、制度として正しいだけでなく、人の気持ちに寄り添い、分かりやすく、支援につながる制度であってほしいと願っています。本日の意見交流が、その見直しのきっかけになれば幸いです。ご清聴、ありがとうございました。

○仲小路議員

素晴らしい提言、本当にありがとうございました。4つほど課題がありました。

まず1つは、いろんな結果というのは、実は作ってはいらるんですけど、ホームページでは載せていないというのが現状で、資料としては決算にあたって全部作っていて、資料を見せてもらえますので、よかったら見に来てください。

それと、制度そのものが非常に複雑なので、いろいろ分かりにくいというのがいっぱいあります。その辺は整理がそれぞれ課に分かれていて、また係によって違うので、今後の課題として、すっきりしたいなというふうに思っています。

それから3つ目、これは確かにそうなんですよね。いろんな方がいらっしゃるの、よく



一緒にあいぱ一くに行くんですけど、なかなか言っていることの意味がわからないと言われます。よく通訳をしまして、市の職員がこういうふうに言うと、いやこれはこういうことなんですというふうに本人に伝えてあげると、分かるということがあります。また、市民の方がこういうふうにしたいと、普通にしゃべるとよくわからないが、本当は何がしてほしいというふうに聞いてそれを伝えるような感じでやっています。なかなか市の職員もどんな人かわからないので、全部伝えないといけないと思います。全部伝えられると相談者が訳がわからないという状況がありますので、その辺は相談される方の状況をよく把握することが大事になるので、一つの大きな課題だと思います。

それから通知の仕方、確かにこれは間違いなく大変な状況だと思いますし、文章というのはなかなか決まったものがありまして、これは、何回か指摘はさせてもらってますけど、なかなかその辺の言い方が直らない事もあります。これは大きな課題として残しておきたいと思いますので、また頑張っていきたいと思います。

あと、提言もいただきました。これは、介護というのは今後非常に大事になってきますし、これから、団塊の世代、わかりますかね、昭和の戦後に生まれた皆さんが、みんな高齢化して、また後期高齢になるという、そういう大変厳しい状況の中で、介護は本当に大きな問題ですので、共に頑張っていきたいと思います。

○田邊議員

大変貴重な意見です。議会でそのまま取り上げても、これは一般質問でも使えるような西山悠太さんの意見です。まずもって私、聖光高校のホームページを見ました。そんな中で、介護の社会福祉科、介護福祉士を目指すという科があって、その中で、「介 tama 日記」とかを発信されております。そのあたりで、今後とも地域の介護の事業者として、ぜひとも役立っていききたい人材なので、私たち光市の中で活躍していただきたいと思っております。



分かりにくい部分ですけど、国が2000年に始めた介護制度ですが、平成27年にも、いわゆる介護事業者は、介護認定を受けた方に介護のいろいろなサービスを提供しますが、各自治体の方はそうじゃなくて、介護予防をしようと、介護予防から始まっていこうというところが、今の分かりにくい複雑なシステムになっていると思います。

しかしながら、本市においても介護予防については、実績がホームページには載っていませんけど、出前講座とか色々なことをやっております。その中で、実績としては、令和6年度は79団体が年間延べ29,422人の方をこういった地域ふれあいサロン、活動支援事業といった形でやっています。市のホームページにはその項目だけしか載ってないんですけど、いわゆる実績自体はそういった予防でやっております。

それとあともう一つ、ケアマネジメントのケアマネの資質と職員の資質の問題、これについては、どのケアマネについても差があってはならない、そういった形でスキルアップ、これも議会の方でいろいろそういったことの提言があったということは伝えますので、今後とも西山悠太さんみたいに、若い人材で頑張っていただきたいと私は願っております。今後とも頑張ってください。よろしく申し上げます。

【光高等学校 石津一輝さん】



私の光市に対する意見は、『光市の夜を明るくしてほしい』ということです。私は小学5年生のころに福岡市内から光市に転校してきました。その時に強く感じたことは、夜道が暗いということです。もちろん夜は昼に比べたら暗いのがあたりまえですが、家や店の少ない場所は特に真っ暗になるところもあります。中学までは暗くなってから一人で出歩くこともなく不便を感じなかったのですが、高校生になり、部活で帰りが遅くなると夜道が暗いことが気になるようになりました。

街灯は車道を照らしていますが、歩道、特に道の端には光が届いていないように思います。そのため、側溝や石、でこぼこに気付きにくいのです。特に通学路で道がカーブしているところでは街灯の明かりが届きにくく、段差や側溝に直前まで気付けないことがあったので、少し危険ではないかと思います。さらに冬は日が暮れるのも早く、早く帰りたいと思い、焦った気持ちで自転車に乗っていることも多く、注意深くなれないのではないのでしょうか。

街灯を増やすことは予算などの問題もあり、すぐには難しいのかもしれませんが。また住宅街では近隣の家への光害を防ぐために光の広がり調整しなければならず、いろいろ制約があるのだと思います。けれど街灯の明かりをもう少し明るくする、または歩道を照らすための明かりを増やすことが徐々にでもできないのでしょうか。

又、夜道が暗くなっている原因の一つに空き家、空き店舗が増えていることもあると思います。空き家が増えることは、防犯の観点からも考えていかなければならない問題だと思います。私の家の近くでも、就職のために県外に暮らしていて、自宅には手入れの為に年に数回しか戻らない、または何年も戻らない空き家が何件かあります。

全国でも空き家は問題になっていて、なかなか解決が難しい問題だとも思います。空き家には持ち主がいるため、必要な時に警察や市の職員であっても安易に立ち入ることができないということも問題の一つです。

空き家対策として、自治体によっては空き家バンクを設置しているところもあります。しかし光市の人口は1984年をピークに減少し続けています。人口が減少している現状では空き家を貸したい、売りたいという人は多くいても、家を借りたい、買いたいという人がいないということが現状ではないかとも思います。いかにして人口の流失を防ぐかについては市議の皆さんがすでにいろいろ対策を講じていらっしゃると思いますが、解決はなかなか難しいというのが現状だと思います。

少しでも多くの人に光市に住み続けたい、市に移住したいと思ってもらえるようにするためにも、住みやすい、夜の明るい光市にしていけることはできないのでしょうか？

高校生の今のわたしにはできることはないかもしれませんが、どうすれば長期的に広く光市の魅力を伝えることができるか考えていきたいと思っています。

○西村議員

非常に、日々の生活から感じている、的確な課題認識だと思いました。街路照明ですが、光市ではおっしゃるように、老朽化のため計画的に減らしています。その代わりに、小さい防犯灯を電柱などに毎年少しずつ増やしています。これは住んでいる自治会から挙げてもらって、毎年協議をして、年に何灯か予算の範囲で設置する制度がありますので、少しずつ増えています。



空き家に関しては非常に増えていまして、現在、全国で840万戸、光市でも1,200戸ぐらいあります。こういう状況で、更に増えていきますので、我々としても課題と認識しております。光市には空き家バンク制度もありますので、しっかり活用しながら取り組んでいきたいと思っております。

いずれにしても、光市はせっかく光という名前がついていますので、夜はもう少し明るくあってほしいものだと私も思います。石津さんの主張をしっかりと我々も受け止めて、今後の活動に生かしていきたいと思っております。素晴らしい発表ありがとうございました。

○河村議員

西村議員からお話がありましたので、それ以上のことになると、昔の話をするようになりますが、昭和50年代に国道あるいは県道を中心に光市を明るい街にしようということで、街路照明を設置しました。室積の方に行くともっと明るいのが残っていますが、もう50年は経過しています。



光市でも先ほど言われた防犯灯を、電気料金を安くしようということでLEDに切り替えておりますので、今まであった既存の街路照明も少しずつ切り替えていますが、LEDは照明のところは明るいのですが、下の方は先ほど石津さんが述べられたように暗いんです。それで、防犯灯の数を増やすのか、或いは明るいものにするのかということ協正在している状況ですので、市民の皆さんにご迷惑をかけないように、自転車で通行しても暗くないというような形にしなければならないと思っております。これからの協議を見守っていただけたらと思っております。

【聖光高等学校 松永愛紗美さん】



私は自然が豊かで、市民の方々が穏やかで温かいこの光市が大好きです。高校生になり光市のために自分には何ができるだろうかと考えた時に、いろいろなボランティア活動に参加してみよう、そこで得た経験を自分の成長に繋げようという思いが強くなり、おっばいまつりの副実行委員長、光市戦没者追悼式へのボランティアとしての参加、献血の呼びかけ等の活動を進んで行ってきました。そして、現在は第9期光市まちづくり市民協議会

に参加し、異年齢、異職種の方々と光市の未来について話し合う機会をいただいています。これらの私の経験を踏まえて、高校生での目線での私の提言を行わせていただきます。

私が一番感じていることは「光市の魅力」の発信の仕方です。例えば、私の地元の室積には「象鼻ヶ岬」があります。ここはとても珍しい地形で、学校でもその成り立ちについては学習していたので知っていましたが、以前「水曜どうでしょう」というテレビ番組で象鼻ヶ岬のことが取り上げられており、この場所が絶景で、どんなに素晴らしい場所であるかを発信されていました。光市在住の人でも、象鼻ヶ岬の名前は知っていても行ったことがないという人は多いのではないのでしょうか。そこで、光市の学校に通う私たち学生が象鼻ヶ岬をアピールできるようなチラシを作ったり、SNSで発信したりすること等の協力をすることができます。また、絶景の夕日が見られるポイントをゴールにした家族や友達で気軽に参加できるスタンプラリーや歴史にまつわるクイズラリーなどのイベントを、私たち高校生にも企画の段階から参加させていただき、創り上げていくところから関わるといろいろなアイデアが生まれるのではないかと考えます。

象鼻ヶ岬だけではなく、こういった場所が光市にはたくさんあります。それを多くの人々に発信するためのイベントに私たち高校生が参加できるような機会を多く作っていただきたいということを提言します。実際にこういった、地元の中学生、高校生が企画・運営側として参加し、市の職員の方々と課題解決のための方法や企画を立て実現に向けて動くことを県内でも長門市や萩市等では先進的に行っていると伺いました。光市もそういった取り組みを率先して行うことのできる町だと私は考えます。

ここ数年、私が通う聖光高校でも地域のボランティア活動に参加をする生徒がかなり増えてきました。そういった学生の力を使わない手はありません。この町をここまでの素晴らしい町にしてこられた先輩方の発想と私たちの行動力が合わされば、光市の今後はもっと素晴らしい町づくりが実践できるはずです。

最後に私には夢があります。それは高校卒業後、私は光市役所の職員としてより良い光市を作るために尽力していきたいというものです。今回させていただいたような内容に、私自身関わって、これまでの光市を作ってこられた先輩方、そして、私たちよりも若い世代の人たちと一緒により良い町づくりを行うための一端を担えたらいいなあと感じています。夢の実現のためにしっかり頑張っていきます。

○仲山議員

大変貴重な意見ありがとうございました。私も室積ですので、象鼻ヶ岬の話が出た時には嬉しく思いました。

「水曜どうでしょう」私も好きな番組ですけど、象鼻ヶ岬の部分は見ておりませんでした。また帰って、調べてみたいと思います。

高校生の時から、こういうふうに関わっていただいている方が、このまちにはいらっしゃるということ自体が私は大変心強く思っております。まちづくり市民協議会での、松永さんの様子も見ておりますけれど、積極的に発言もしていらっしゃって、こういう人たちが一人でも二人でも、またこれから後続く人たちが出てくれるといいなと思っております。



ご指摘のところ、発信の仕方が今一つうまくいってないんじゃないか、もっとうまくできるんじゃないかと、本当にそうだと思います。今、個人で発信できる時代になってきて、いろんなツールで、いろんな発信が行える時代になってきています。その新しいツールなんかには行政の方、あるいは我々のような年齢の人間が、なかなかついていけないところもあるんだと思います。

そういう意味ではおっしゃっているように、若い人たちが関わることで、きっといいアイデアやいろんなことが出てくると思います。チャンスがあれば、皆さんにもぜひ積極的に関わっていただきたいと、そういうふうに思っています。

最後に、夢のことを話させていただきました。ぜひ実現して、まちを具体的に良くしていくことに関わっていただけるといいなと思います。実は以前この場で、私の胸を打つような発表をなさった方がいました。今、市の職員として実は働いてくれています、そういう方々が続いているんだなというのを心強く思いました。

○萬谷議員

ご提言、そして発表ありがとうございます。まず言っておきたいところは、このボランティアに積極的な件ですね。自分の時間を誰かのために使うということは本当に立派だと思います。

なかなかできることではありませんし、その経験はきっと将来のためになると思っています。この考え方というか行動力というのを、ぜひこれからもしっかりと自分を信じて続けていってもらえたらいいなと思っています。



そして、自治体の発信力のことを言われて、ここでの自治体というのは光市ということなんですけど、自分たちの地域の魅力情報、考え方を住民や外部の人に分かりやすく効果的に伝えるという発信力というのは、そういう力のことです。自治体の発信力が重要な理由としまして、例えば地域の魅力を発信すれば、観光や移住や定住というところにつながりますし、防災や危機管理という面では、緊急時に迅速で正確な情報を提供できるといういろんなメリットがございます。分かりやすさとタイムリーさをしっかりと心がければ、大きな成果になってくるし、大変大事なことだと思っています。

その上で、象鼻ヶ岬は古くから地域の人々に親しまれてきた、自然の名所であることは分かっております。大規模な観光地ではございませんけど、静かで落ち着いた雰囲気のある、地元ならではの魅力を感じられる場所でございます。

このように今回の提言をいただくと、私ども地元の間人も気付かなかったような魅力の発信、これはやっぱり新しい観点からのアイデアをいただいたと思っています。

いろんなアイデアは、光市の活性化にとって、大きな可能性を秘めていると思いますし、皆さんのような若い世代が企画段階から関われる機会は、今もなるべくそういうふうなことをしようと思って、徐々には増えてはいます。これからも、ずっとたくさんそういう機会を設けていければなと思っていますし、そういうふうに考えております。

あなたの夢も応援しますし、光市をより素晴らしい住みやすいまちにするために、皆で取り組んで、ともに頑張ればと思っています。ご提案ありがとうございます。

【光高等学校 藤井陽菜子さん】



私の、光市をより良くするための提案は、学生が利用しやすい公共施設の環境づくりをすることです。

例えば、光市民ホールの利用料金について、学生への割引や、教育委員会からの免除の拡充を検討していただきたいです。

今年度、私たち光高校は、文化祭で光市民ホールを使用させていただきました。広くて設備も整っており、生徒からも「とても良かった」「また使いたい」

という声が多く聞かれました。私自身、演劇部に所属しており、前日から照明などで分からないことも多く、とても大変でしたが、職員の方が丁寧にサポートしてくださり、本当に助けられました。この場を借りて、感謝の気持ちをお伝えしたいです。このように、光市民ホールは学生にとって、とても貴重でありがたい施設です。

しかし、来年度も利用したいという思いはあるものの、光高校では生徒数の減少などの影響もあり、学校全体として使える予算が限られているのが現状です。そのため、使用料の負担が大きく、継続して利用することが難しいと感じています。

もし、学生が文化活動や学習目的で利用する場合に、使用料の割引や免除の制度が今よりも充実すれば、私たち学生にとって大きな支えになると思います。学生のうちから演劇や音楽などの文化に触れることは、感性を育てるだけでなく、将来の進路や地域への関心にもつながる大切な経験だと感じています。

また、文化施設だけでなく、学生が安心して集まり、学習や交流ができる公共施設についても考えていただきたいです。放課後や休日に話し合いやグループ学習をしたいと思っても、利用料金が高かったり、静かに利用しなければならない決まりがあったりして、学生同士での活動がしにくい場合があります。

そこで、公共施設の利用ルールや利用料金について、学生目線での工夫をしていただけたら嬉しいです。私たち若い世代が、光市で学び、交流し、成長していくための環境づくりにつながると思います。

今日お伝えした提案が、光市をより魅力あるまちにする一つのきっかけになれば嬉しいです。

○中村議員

実体験に基づいた、とてもわかりやすい提案をありがとうございました。光市民ホールを実際に利用したからこそわかることで、職員の皆さんへの感謝の気持ちというのが率直に伝わってきました。

私自身もダンスの発表会など、様々なイベントで光市民ホールを使用することがありますが、本当に舞台設備や音響や照明がしっかりしていて、藤井さんの発表でもありましたように、丁寧にサポートしてくださる職員の皆さんの存在というのは、本当に心強いものだと私自身感じています。だからこそ、学生の皆さんがまた光市民ホールを使いた



いと思う気持ちには強く共感するところでは。

一方、そういう気持ちはあったとしても学校の予算などの制約によって、継続した利用が難しいという現実的な課題について、学生の立場から率直に語っていただいたことは、とても重要な視点だと思います。やりたいことがあるのに、環境や費用の壁で諦めざるを得ないという状況というのは、できるだけ減らしていくべきだと感じました。

文化活動や学習の場として、公共施設をどう活かしていくかについては、将来の人材育成や藤井さんのように光市を好きでいてくれる若い世代を育てていくことにもつながっていくと思います。

今日の提案は単なる要望とかではなく、光市の未来を見据えた前向きな意見だと受け止め、本日いただいた声を大切に、学生の皆さんがいろいろなことに挑戦しやすい環境づくりについて、今後の議論に生かしていきたいと思いました。ありがとうございます。

○早稲田議員

藤井さんのご意見を伺いまして、確かになるほどと感じました。光市の公共施設は老朽化しているものが多く、修繕等について対応を検討されている現状ですが、学生がやりやすい環境づくりという観点をしっかり考える点は少し抜けていたようで、改めて発見がありました。

若い皆様が公共施設を利用していただければ、光市が活気づくと考えます。今後は学生が利用しやすい環境づくりという観点を考慮いたしまして、私たちも積極的にその対応について検討していきたいと考えます。

また、藤井さんは演劇部に所属と言われましたが、光高校の演劇部は3月には公演があり、そして夏の全国大会の出場が決まっているということで、是非頑張ってくださいと思います。皆様のご活躍を期待して応援しております。本日は素晴らしい発表ありがとうございました。



2 意見交換会

○聖光高等学校 池田陽斗さん



光市への要望に近いものになるんですが、横断歩道の白いところが剥がれていたり、点字ブロックが割れていたりするので、その整備をしていただきたいと思います。

○清水議員

今おっしゃられた横断歩道の白線の部分とか、道路の剥がれたところとかも、おっしゃる通りだと思います。

今、光市にはアプリがあって、こういったところが危ないよとかいう写真を撮って市に送って、それで市の職員がその危ないねっていうところを見に行っ、対応するようなこともやっております。

それでもやっぱり、行き届かないところもありますので、そういったところを我々議会としても、しっかりと取り組んでいかなきゃいけないと思っていますので、引き続きやってまいります。



○光高等学校 竹重心さん



虹ヶ浜ではゴミが問題となっていますが、それに対してボランティア以外での政策はありますか。

○田中議員

虹ヶ浜のゴミということでご提案をいただきました。

私もそうなんです、今ボランティアで、市民の方たちが松葉清掃を行っています。

松葉が大量に集まる中で、処分費がやっぱりかかるので、この部分は何か活用できないかということで、光市の方が民間提案制度ということで、提案を募集しています。松葉の利活用について募集をしているので、もし何かいいアイデアがあったら、案をいただけたらと思います。ぜひそういった部分でも、皆さんの声を聞かせていただけたらと思っています。



○聖光高等学校 舞田好美さん



下校の際、16時台ごろのバスに乗りたいのですが、バス停について30分以上待つこともあり、しかも多くの学生が利用するため、かなり混み合っている状態です。

せめて学生が多く下校する時間帯だけでも、バスの便数を増やすことはできないでしょうか。

○田邊議員

都市政策部の公共交通政策課が今、バスの関係はやっております。そういった迷惑がないように、学生の方が不便にならないような形で、また、委員会で取り上げて、改善していきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。



○光高等学校 櫻井心葉さん



光市では、若者が進学や就職で市外に出た後、また光市に戻ってきたいと思えるような取組みをどのように考えていますか。

○田邊議員

雇用については、雇用の担いの手の問題等いろいろな側面がありますが、取組みとして、光市にはU J I ターンなどについて補助金制度があります。

こういったものは経済部の関係の所管になりますが、人口減少等も大きな問題であります。今後とも議会で取り上げて、取り組んでいきます。



○藤川議員

貴重なご意見ありがとうございました。戻って来たいと思われるような、魅力あるワクワクするような光市にしたいと、皆が願っております。

今回若い人たちの意見を聞いて、やはり視点が違うといったところにも気付かされました。若い力を使わない手はないということもおっしゃっていただいて、ぜひ若い力も一緒に市政につなげられるように、私どもも頑張っていきたいと思えます。

魅力ある光市を目指しております。皆さんと一緒に頑張っていきたいと思えます。



○光高等学校 中本しずくさん



小学校・中学校の体育館の冷房設備のことで質問です。夏の熱中症の問題が高まっているこの状況で、体育館にエアコンを設置する予定はありますか。ぜひ、お伺いしたいです。

○河村議員

光市では今、小中一貫校ということで、まず手始めにやまと学園、大和地区の小学校、中学校を一緒にして、新しい校舎・体育館を建てる予定にしております。

そこでは当然、エアコンを設置することになっているんですが、周南市とか他の市では、新しいエアコンを体育館につけようということで、5年計画とかで取り組んでいて、光市でも今からそういう取組みをするところです。



皆さん方から、こういうご意見もあったよということで、市の方に伝えて、なんとか設計段階から入れてもらえるように頑張っていきたいと思います。

○聖光高等学校 中島亜佑子さん



私は、毎年光市の花火大会を楽しみにしており、昨年も家族みんなで花火を見ました。光市の花火大会はなくてはならないもので、花火を見ていると光市に住んでよかったと感じます。是非、来年も再来年も光市の花火大会を続けて欲しいと思います。よろしくお願いします。

○清水議員

私もそう思います。花火大会を来年も再来年も開催したいと考えています。昨年の花火大会は、市で開催することができず、有志による実行委員会が新たに発足し、開催することができました。現在、実行委員会の中で、どのような形式で開催するのかなどの検討を重ねています。是非、開催しましょう。



○光高等学校 近藤泰志さん



高校生や若者が防災について興味を持つことは重要だと思いますが、光市として高校生や若者が防災に興味を持つことができる取り組みや、仕組みなどがありますか？

○仲小路議員

防災には3つあって、1つは、災害が発生した場合においても強度がある施設であれば、被害は最小限ですみます。また、災害が発生した時に迅速、かつ適切に避難することも必要です。それから逃げた後に、ちゃんと避難所で生活できるようにという、いろんなパターンがあります。防災を勉強すればするほど楽しくなりますので、一緒に勉強していきましょう。



○聖光高等学校 岩村爽花さん



私の住んでいる虹ヶ丘も、山口銀行がなくなったり、ATMがなくなったり、もともとあった丸久が移転したりと、歩いてすぐ行ける場所が減ってきています。こういうふうに住みにくいことが起こると、高齢者の方々が、車の免許の返納をする勇気がなくなると思うので、免許の返納をしても住みやすい市にしてほしいです。

○中本議員

おっしゃる通りです。高齢化社会になって、車の運転ができなくなったりして、公共施設やATMを使ったりする所に行けないという方が増えております。一番手っ取り早いのは、コンビニを活用することで、ATMを使用することが可能です。高齢化社会が進展する中で、高齢者が生活しやすい環境を整備していく必要があると考えています。



○聖光高等学校 磯崎陸羽さん



僕の大好きなこのまち、光市をより住みよいまちとするために、これまでどのような取り組みをしてきたかというのと、このまちをどのようなまちにしたいかということを知りたいです。

○小林議員

非常に大きなテーマをいただきましたので、少し視点を絞ってお伝えします。住みよいまちとするために何をしてきたのかという質問に対しては、“子育て”にフォーカスしてお伝えします。昨年4月から虹ヶ丘に病児保育施設が開設されたことで、働く者が安心して働けるようになり、これも住みよいまちの一つになると考えます。



今後、このまちをどのようなまちにしたいのかという質問に対しては、安心して住み続けるためには、働く場所が必要であり、雇用の確保が重要です。現在、山口県の事業ではありますが、光市の小周防に新たな工業団地をつくっています。この工業団地が完成した暁には、新たな雇用が生まれ、ひいては若い人が光市に戻ってくることもつながります。私は、誰もが活き活きと働き続けられるまちを目指していきべきだと考えています。

○清水議員

私からも1点、住みやすいまち、より良いまちにするためには、やっぱり人口減少問題があります。人口が減ると賑わいの喪失につながります。

それで、賑わいを作ろうということで、虹ヶ浜に常設の、海の家だけじゃなくて新たな建物をこれから募集していきます。まだ何ができるか今募集している段階なので、カフェができるのか何ができるのか分からないですけど、何か面白いものができると思います。

そういったところで、虹ヶ浜に活気を取り戻そうということもやっていきますので、皆さん期待しておいてください。



○光高等学校 梅光輝さん



牛島の過疎化が進んでいる中、どのような対策に取り組んでいるのでしょうか。

○井垣議員

牛島に興味を持っていたいてありがとうございます。すごい可能性を持った

島だと思っております。

昨年ですね、牛島に初めて民泊ができて、お客さんも、着実についております。

それと釣り客ですね。牛島は釣りが目玉でして、牛島まで行って釣ろうという人もいます。それで、うしま丸っていう旅客船を新しく作ったんですよ。それで、乗船数が増えております。少しずつ増えているんですね。だけど、その民泊のお客さんが行ってもお店がないわけで、食べるものを全部持っていかなきゃいけないんですけど、それでもそういうのを楽しむ人がいて、一泊してくれる、二泊してくれる、釣りをする、海で遊ぶという、そういう観光客、滞在客がいます。

あと、釣り客もいるという形で、そこを基盤として、少しずつ牛島の魅力を発信していきたいと思っています。



○中本議員

牛島につきましては、一時は300~400人ぐらいの人口がおりました。しかし、現状では20人ぐらいで、その中で10世帯ぐらい独居老人もお一人で住んでおられます。

今まで、水道問題やいろんなものを、市で手当てをしてきましたが、現状ではそんな状況なんで、非常に厳しく、私たちが寂しく思っております。

そんな状況の中で、今後どうやって牛島を活性化していくか、これはやっぱり大きな課題になってきております。高齢化、75歳以上、80歳近くの高齢者ばかりで、非常に頭を抱えております。牛島のために何とかできないか、何ができるのかなということを非常に考えておりますが、なかなか厳しい状況です。

また、牛島の活性化については、取り組んでいかなければならないというふうに思っておりますので、しばらく時間をいただきたいと思っております。

何かいい案があれば、またご提案をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。



○仲山議員

今、いろんな話があったように、本当に厳しいということも、もちろんあるんです。牛島に行ってみられたことがある方が、この場にどれだけいらっしゃるかわからないだけ



ど、建物はそこそこの数あるのに、住んでいる人が先ほど言ったような状態なので、多くの空き家が放置されていて、なかなかまずくなっているということがあります。

でも、牛島にはすごい財産があるんです。天然記念物があります。いくつもあります。光市の貴重な自然の多くを牛島が持っています。可能性はあるんです。先ほど話もありましたけど、本当にこれから考えていかなきゃならないところだと思っています。

○聖光高等学校 西山悠太さん



光市で行われている、ボランティアやイベントなどに関する発信をもう少し詳しく行っていただけませんか。

○藤川議員

光市の発信というところでは、やはり足りてないのでという意見をどこからも

いただきます。

昨年の9月に「ひかりんぐ！」というプラットフォームができたんですが、仕事探しであったりとか仲間探しであったり、そういったものを集約した情報サイトです。そこを見ていただければ、いろんな情報を見ることができます。

発信についてはご指摘がありますので、いろんな角度から、これからも改善する余地があると思っています。



○西村議員

光市のイベントの情報発信力が弱いのではないかとということで、藤川議員からも話がありましたけど、「ひかりんぐ！」というものももちろんあります。

あとは光市の公式LINEやInstagramがあるのはご存知でしょうか。ご存知なかったら、ぜひ今日これが終わったらフォローしていただきたいと思います。意外と様々な媒体や手段で、光市は発信をしています。

また地域おこし協力隊ということで「だいちゃん」という方が積極的に活動していますけど、そういったSNSの発信も徐々にインプレッションも増えてきておりますので、まずはそういったものを高校生の皆さんがフォローしていただいて、いろんなイベントの情報があるよということを皆さんも一緒に広めていただくと、より詳細な情報も取りやすくなっていくかなと思いますので、ご協力をお願いしたいと思います。

それについても、発信はいろいろな手段で情報を提供していけるように、我々も目を光らせたいと思います。



○光高等学校 藤井陽菜子さん



皆さんみたいに、素晴らしい質問じゃなくて申し訳ないんですけど、光市議会議員さんのお給料ってどのくらいなんですか。それと、市議会議員さんはこういう議会以外には、どういったお仕事をされているのかが知りたいです。

○清水議員

月給は37万です。今、ちょうど、それがどうなのかというところで、安いのか高いのか、あと、定数の問題も今、研究会を発足させて取り組んでいるところです。

本当に皆さん兼業ができるので、いろいろ仕事をされている方はいます。私は建設業とか福祉の仕事、会社とかそういった他の事業をやっているのですが、本当に様々あります。



3 傍聴者アンケート

(1) 今回の意見交換会の感想、意見等をお聞かせ下さい。

- ・ 高校生の意見に対して、しっかり答えてくださる議員の方の姿、直接聞くことができる場として、とても貴重な場だと感じました。聖光高校の教職員として、傍聴させていただきましたが、48名の高校生が参加（傍聴）させて頂けると、とても勉強、刺激になると感じました。自身のクラスの生徒が5名も参加させて頂き、光市民の子達の意見、考えは、とても面白く、以前参加させて頂いた際よりも、市政にボランティアという立場ではありますが、参加している現状を感じております。ぜひ、市政に関わる方々との交流の場を継続して実施して頂けるようお願い致します。高校生に貴重な経験の場を提供して下さい、ありがとうございます。
- ・ 1. 聖光高校の西山悠太さんの発表～要介護認定申請の結果報告の「却下」には驚いた。上から目線の事務処理である。
- ・ 2. 光高校の石津一輝さんの発表～街灯照明の暗さは市民誰でも感じていること。しかし、防犯灯の増加も知っている。高校生の登下校ルートは明るくしてもらいたい。
- ・ 3. 聖光高校の松永愛紗美さんの発表～室積地区特に象鼻ヶ岬、普賢寺庭園など名所が多い。PR不足は昔から感じている。市のYouTube紹介を見ても発信不足である。市議の藤川みゆきさんも市紹介方法を検討されているので合体願う。
- ・ 4. 光高校の藤井陽菜子さんの発表～公共施設の学生割引は必要だと思う。免除？も検討されたい。
- ・ 高校生が市政に関心をもつよい機会となった。普段は入場することのない議場に入る経験もできたので、選挙や政治にも積極的に参加する大人に成長してほしい。
- ・ 生徒にとって、市議会議員の方との意見交換は、普段の学校生活ではなかなか得ることのできない、初めての貴重な経験となりました。また、社会や政治をより身近に感じる機会となったと思います。今回の経験を、今後の学校生活や将来について考えるきっかけとし

て生かしてほしいと感じました。お忙しい中、貴重なお時間をいただき、意見交換の機会を設けてくださった市議会議員の皆様に、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

- ・高校2年生の意見も市民の声として受け止め、明るく優しい町“光市”を目指して頑張ってください。市民の心を掴んで欲しいです。

『意見交換会』 中には... 答弁がうまく着地しないな～。

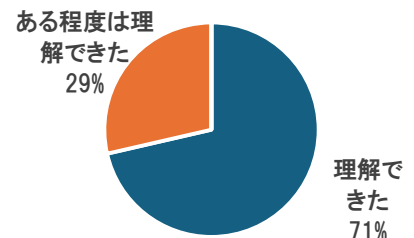
- ・高3生も参加できる時期に開催を望みます。パワーポイントを利用しての発表を期待します。
- ・若いつてすばらしい

4 参加高校生アンケート

(回答14 回収率100%)

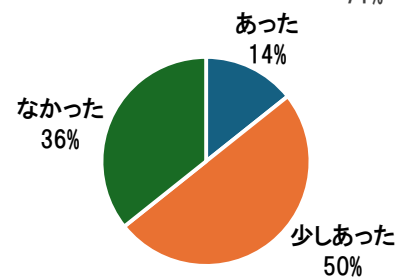
(1) 市議会の役割や活動は理解できましたか？

- ①理解できた 10人
- ②ある程度理解できた 4人
- ③あまり理解できなかった 0人
- ④理解できなかった 0人



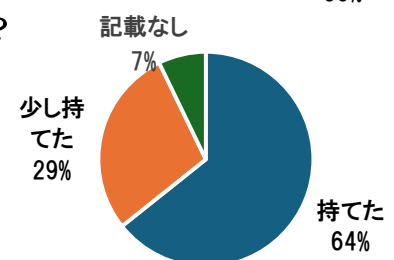
(2) 今まで市議会に関心はありましたか？

- ①あった 2人
- ②少しあった 7人
- ③なかった 5人



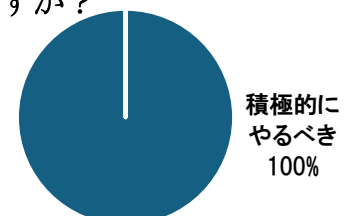
(3) 今日、参加して市議会に関心を持つ事はできましたか？

- ①持てた 9人
- ②少し持てた 4人
- ③持てなかった 0人
- ※記載なし 1人



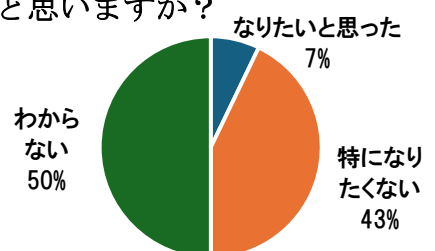
(4) 今回のような意見交換会を開催することについてどう思いますか？

- ①積極的にやるべき 14人
- ②必要性を感じない 0人
- ③わからない 0人



(5) ズバリ、市議会議員をはじめとする政治家になりたいと思いますか？

- ①なりたと思った 1人
- ②特になりたくない 6人
- ③わからない 7人



(6) 今回の意見交換会の感想・意見等をお聞かせ下さい。

- ・今回は、このような素晴らしい場をもうけていただきありがとうございました。発表するにあたって光市のことを考えるとあらためて私は光市のことが好きなのだと感じました。これからも、光市のことについて考えていきたいと思います。
- ・光市には、身近に感じる問題があると改めて知りました。牛島の活性化をするために、そこでリアル逃走中を行うのはいいと思いました。
- ・光市の議員さんについてのことが知れたり、どのようなことをしているのか理解することができた。光市についてもよく知れてとても有意義な時間でした。
- ・花火大会を実施してほしいことなど。今日は、貴重な時間をありがとうございました。
- ・政治の面では興味がないかぎり現実味のないことだったので、このような機会をいただけて嬉しかったです。今回をきっかけに自分でも光市の取り組みについて調べてみたいと思いました。
- ・浅江中学校が移転した後、跡地は今後どうなる予定ですか？ また、光市では捨て犬・猫は周南健康福祉センターに収容されるようですが、一週間しか命の期限がないと知り、もっと長く生かして、保護団体などにつなげていくことはできないのでしょうか？
- ・議員さん皆さん優しく、フラットな雰囲気意見も言いやすかったです。ぜひ、私たち高校生の声を、今後の光市に生かしてほしいです。今日は本当にありがとうございました。
- ・このような場で、自分の意見などを発言することなどができ、新しい疑問などを持つことができました。貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。
- ・とても市議長さんと話せてよかったです。
- ・自分は実際に市議の方とお話したことはありませんでした。自分の中で光市のことを考える上で貴重な時間になりました。また、市議の方の市民の声に耳をかたむける姿勢がとてもすごいと感じました。
- ・バスの本数を増やしてほしい。ぐるりんバスをまわる地域を増やしてほしい。(休日でも)
- ・自分の意見を伝えることができ良かった。意見の一つとして、バスの時間帯を増やすのが難しいとしても、学校と連携して、時間を変便することは可能か。
- ・たまに花火がなんでもないような日にあがっていること。
- ・牛島では釣りが有名ときいて民泊など泊まる場所に釣った魚を持っていくとさばいてくれるサービスなどをしてみてもいいと思います。